

3-(5) 道路工品質管理一覽表

種別	試験区分	試験項目	試験基準	規格値	試験値又は管理値						備考 (試験方法等)		
					No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6		平均値	設計値
	材料	CBR試験(路床)	当初及び土質変化時 路体 1,000m ³ に1回	最大乾燥密度の 85%以上	No.			No.				JIS・A1211	
		現場密度の測定	路床 500m ³ に1回		空気間隙率 2%≦Va≦8%	No.			No.			最大粒径53mm以下 砂置換法 JIS・A1214 最大粒径53mm超 突砂法	
						No.			No.			舗装調査・試験法便覧[4]-256	
						No.			No.				
	ブルーフローリング	路床仕上後全幅 全区間について実施		良好		不良(内容: ※不良の場合の措置:				舗装調査・試験法便覧[4]-288			
	材料	骨材のふるい分け試験	当初及び材料変化時	40～0mm								JIS・A1102 JIS・A5001 表2参照	
			53mm	100%									
			37.5mm	95～100									
			19mm	50～80									
			4.75mm	15～40									
	施工	修正 CBR 試験	当初及び材料変化時	粒状路盤 20%以上								舗装調査・試験法便覧[4]-68	
			425 μ m ふ り い 通 過 分 の P I	当初及び材料変化時	6以下							JIS・A1205	
			現場密度の測定	1,000m ³ に1回	締固め度 % $\bar{X}_{10} \geq 95$ $\bar{X}_6 \geq 96$ $\bar{X}_3 \geq 97$	No.			No.			舗装調査・試験法便覧[4]-256	
					但し10回に9回は93.0%以上 平板載荷試験 k30=15g/㎡	No.			No.				
				ブルーフローリング	仕上後全区間に ついて実施		良好		不良(内容: ※不良の場合の措置:				舗装調査・試験法便覧[4]-288
	材料	骨材のふるい分け試験	当初及び材料変化時	40～0mm 25～0mm								JIS・A1102 JIS・A5001 表2参照 舗装施工便覧(表-3.4.3)	
			53mm	100%									
			37.5mm	95～100									
			31.5mm	—	100%								
			26.5mm	—	95～100								
	施工	修正 CBR 試験	当初及び材料変化時	80%以上(アスファルトコンク リート再生材90%以上)								舗装調査・試験法便覧[4]-68	
			425 μ m ふ り い 通 過 分 の P I	当初及び材料変化時	4以下							JIS・A1205	
			現場密度の測定	1,000m ³ に1回	締固め度 % $\bar{X}_{10} \geq 95$ $\bar{X}_6 \geq 95.5$ $\bar{X}_3 \geq 96.5$	No.			No.			舗装調査・試験法便覧[4]-256	
					但し10回に9回は93.0%以上	No.			No.				
				粒 度	1,000m ³ に1回	2.36mm ±15%以内 75um ±6.0%以内							舗装調査・試験法便覧[2]-16
	材料	骨材のふるい分け試験	当初及び材料変化時	(13) 19mm 100% 13.2mm 95～100 4.75mm 55～70 2.36mm 35～50 600um 18～30 300um 10～21 150um 6～16 75um 4～8							JIS・A1102 JIS・A5001 表2参照		
			骨材の密度及び吸水 率試験	当初及び材料変化時	表乾密度 2.45g/cm ³ 以上 吸水率 3.0%以下							JIS・A1109 JIS・A1110	
				骨材中の粘土塊量 試験	当初及び材料変化時	粘土、粘土塊量: 0.25%以下							JIS・A1137
				粗骨材の形状試験	当初及び材料変化時	細長、あるいは扁平な 石片:10%以下							舗装調査・試験法便覧[2]-51
			フィラーの粒度試験	当初及び材料変化時	600um 100% 150um 90～100% 75um 70～100%							JIS・A5008 舗装施工便覧 表3.3.17による	
	フィラーの水分試験	当初及び材料変化時		1%以下							JIS・A5008		
	ブルトン	配合試験	配合ごとに1回 (50t未満は省略することができる。)	O.A.C	密度	理論密度	空隙率	飽和度	安定度	フロー値	O.A.Cとは最適アスファルト量 舗装調査・試験法便覧[3]-5		
			粒 度	1日1～2回(抽出の場合)	2.36mm ±12%以内(基準粒度) 75um ±5.0%以内(基準粒度)							舗装調査・試験法便覧[2]-16	
			合材抽出試験	アスファルト量	±0.9%以内							舗装調査・試験法便覧[4]-238	
			温度測定	1時間ごと	配合設計の混合温度。 185℃を超えてはならない							温度計による	
舗装		粒 度 (2.5mmふるい)	2.36mmふるい 1～2回/日								舗装調査・試験法便覧[4]-16		
			%	±12%以内基準粒度									
		粒 度 (75umふるい)	75umふるい 1～2回/日									舗装調査・試験法便覧[4]-16	
			%	±12%以内基準粒度									
施工		温度測定 (初転圧前)	測定値の記録1日4回 (午前・午後各2回)	110℃以上							温度計による		
		現場密度の測定 (コア密度)	3孔以上	$\bar{X}_{10} \geq 96$ $\bar{X}_6 \geq 96$ $\bar{X}_3 \geq 96.5$							舗装調査・試験法便覧[3]-91		
		アスファルト量抽出試験	1,500m ³ に1回	$\bar{X}_{10} \pm 0.55$ $\bar{X}_6 \pm 0.50$ $\bar{X}_3 \pm 0.50$							舗装調査・試験法便覧[4]-238		